



ホア ビン (平和)

HOA BINH レポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD,333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

48 号

2020 テト(旧正月)元旦は 1 月 25 日

会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)0188872



無形世界遺産“ハウドン様式”による Co Doi Thuong Ngan (2019 コンサートから)

2020 年初頭にあたり、皆様の平素のご協力に感謝申し上げます。

JVPF は今年 20 周年を迎えることになりました。20 周年を迎えるにあたり一層の活動発展を目指し、昨年の NPO 第 12 回総会から諸事業について協議してきました。

1. 認定 NPO への移行を具体化

NPO・JVPF をより社会的認知を受けたものとし、幅広い協賛の呼びかけによって活動基盤を整えていくためのものです。

2. 記念資料「日本の労働者とベトナム戦争」作成

JVPF の活動の柱である枯葉剤爆弾被害者支援の背景にあるベトナム戦争時の日本の労働者の「ベトナム反戦闘争」における足跡を正当に残していきたいとの思いからです。

3. 解放統一 45 周年記念訪問団の取組み

2020 年はベトナム解放統一 45 周年となります。JVPF は同 40 周年 (2015 年) に訪問団を取り組みました。これまでも少数民族学生奨学金や枯葉剤被害者支援でベトナム訪問の取組がありますが、「サイゴン解放記念日」にあわせて JVPF20 周年記念訪問団を取り組みます。

4. 20 周年祝賀会の開催

第 13 回総会を祝賀会として、村山会長のお膝元・大分で 5 月 30 日 (土) ~ 31 日 (日) 開催します。
20 周年を振り返り会員の懇親も深めたいと思います。

5. 枯葉剤被害者支援『仁愛の家』寄贈活動

これまでの支援活動の在り方を総括し、被害者に支援が直接届けられ形で、被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈の活動を行うことにします。

この基金のため「私の体の中では戦争が終わっていない」という被害者の叫びを受け止めたベトナムアンサンブルチャリティーコンサートの継続をしていきます。

以上の 20 周年記念事業の取組を通じて、JVPF の次の活動へのステップとしていきたく、会員の皆様の協賛とご参加をお願いする次第です。

2020 年正月とテトの日
日本ベトナム平和友好連絡会議
理事長 宝田 公治

第 13 回総会 (25 回理事会) のご案内

- ・2020 年 5 月 30 日 (土) 14 時 00 分 ~ 31 日 (日) 13 時 30 分
- ・25 回理事会は同日、同所、総会時間内で開催
後日、正式ご案内を致しますので、ご予定お願いします。

本号の内容

- 2019 ベトナムアンサンブルコンサート報告/青森、秋田、西東京、南魚沼
- 活動のたより——JVPF 福岡、さいたま JVPF、岩手支部、広島 HVPF、ホーチミンオペラ、香川 KVPF
- 奨学金支援——JVPF 鹿児島 (コンソン島訪問記添付)
- 掲示板

～24年目を数えたベトナムアンサンブルチャリティーコンサート～
“私の体の中では戦争が終わっていない”という叫びに忘れて

青森公演

伝統の音楽の響き 再び

ベトナム戦争は1955年から1975年までの約20年間行われ、述べ推定戦死者・行方不明者約250万人、民間人死者約460万人もの尊い命を奪っています。また、この戦争では枯葉剤が使用され、ベトちゃん、ドクちゃんに象徴されるように膨大な被害を出し、いまだその被害は継続されています。



挨拶する内山清実行委員長（青森中央学院大学教授）

そのため、こうした状況を救済するため、24年前から日本ベトナム平和友好連絡会議（JVPF）及び国際友好文化センター（IFCC）の呼びかけにより、日本全国で「ベトナムアンサンブルコンサート」が開催され、チャリティー活動が続けられています。

今年も北東北3県での開催が決まり、青森県においても青森市の「県民福祉プラザ」において開催の運びとなりました。

私たち「青森県ベトナムアンサンブル2019コンサート公演実行委員会」は、JVPF及びIFCCから青森公演開催の要請を受け、青森公演の成功に向け、9月2日に県公演実行委員会を立ち上げ、協賛団体への働きかけやチケット販売を行ってきました。

当日、10月18日は、2年前に続いて国立ボンセン歌舞団の選抜グループ9名が来青。ベトナムの民族が織りなす1000年のパフォーマンスが繰り広げられ、多彩なプログラムと高度な演奏で、独特な音色が会場に響き、集まった124名の観客を魅了しました。

最後にこの場をかりて「青森県ベトナムアンサンブル2019コンサート公演」にご後援、ご協賛いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

多くの市民が詰めかけ、盛大に行われ成功裏に終わることができました。

公演にあたってのご協力に対し、心より感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。報告とさせていただきます。（青森公演実行委員会）

秋田公演

反戦、平和への願いが強固に

今回のベトナムアンサンブルチャリティーコンサートを開催するにあたり、秋田県平和運動推進労組会議（以下、県平和労組）を母体とする秋田公演実行委員会を立ち上げ、4回にわたり打ち合わせを行い準備を進めてまいりました。

コンサート協力金については、県平和労組に結集する仲間

を中心とした大勢の方々が協力してくださり、額にして90万円以上の協力金を集めることができました。

10月22日コンサート当日は、会場となった秋田県児童会館げきシアターに約200人の方々が来場し、トルンなどのベトナム特有の楽器の音色や伝統民族音楽、それに合わせて華麗かつダイナミックに舞う踊りに魅了されました。

特に、ベトナム国家優秀芸術家称号を持つグエン・アン・タンさんによるダンダーイの演奏では、その繊細な音色に、大きな拍手が沸き起こりました。

会場ロビーにおいては、ベトナム戦争写真展を設置し、来場者は、枯葉剤被害に関することなど、パンフレット情報とともに、案内担当者からの説明に熱心に耳を傾けていました。

120分間のコンサート終了後、来場者らは、魅了された楽器の音色や伝統民族音楽についての感想などをはじめ、枯葉剤被害をはじめとするベトナムの現状やそれに対する支援について、それぞれに感想や意見を話し合うなど、平和についてさらに深く考える機会となったようです。

秋田県においては、イージス・アショア配備候補地に関する問題が大きく議論されておりますが、このチャリティーコンサートを通じて、反戦、平和への願いが強固になったと確信しています。（秋田公演実行委員会）



観客を魅了したグエン・アン・タンのダンダーイの演奏

御 礼

24年目のチャリティー公演は2019年10月17日～26日の期間、8箇所（東松山、青森、盛岡、秋田、西東京、相模原、南魚沼、富山）でチャリティー公演、2箇所で友情演奏会（埼玉・東松山市の小学校と西東京市の小学校で民族楽器紹介・演奏）を行いました。

来場者は約2,000人、チケット購入協賛者は2,800人ほどとなりました。

公演回数は少ないでしたが夫々の公演は予想を超える参加者で主催者や公演実行委員会方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。

今回はハザン省での枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈活動の開始年でもあり、ご協力いただいた方々の志の浄財がその基金として利用されました。

また、西東京市の小学校の民族楽器紹介・演奏に参加した小学生全員からボンセン歌舞団に手紙をいただいたことなど嬉しいこともありました。枯葉剤被害者支援チャリティーのみならず、日越友好の民間大使としての役割も果たすことができ有難く思っております。ここにあらためて御礼を申し上げます。

記：鎌田 篤則

新潟・南魚沼公演

16 年ぶりに民族音楽と踊りを堪能

ベトナム戦争での枯葉剤による被害者を支援する活動として、今年で 24 年目となるベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサートを新潟県南魚沼市のコミュニティホール「さわらび」で開催し、多くの観客がベトナムの民族音楽と踊りを堪能しました。

コンサートは 2 部構成で演じられ、1 部は『竹』を多用したベトナム民族楽器の演奏や歌、踊りが紹介されました。2 部ではボンセン歌舞団選抜グループのリーダー、グエン・アン・タンの演奏と踊りが披露され、新鮮な音の響きが会場を魅了しました。

ロビーには、米軍による枯葉剤爆弾の被害を伝えるパネル展が行われ、4 世代にわたって深刻な精神および身体障害を引き起こし、ベトナムの人々を今もなお苦しめ続けている実態を伝えるパネル展を行い、訪れた人の関心を寄せていました。

南魚沼市では約 16 年ぶり、2 回目の開催となりました。実行委員会を立ち上げ、多くの団体や個人からご協力いただいたことに感謝申し上げます。

参加された方からは、「演奏や歌、踊りが大変すばらしく、もっと多くの人に聞いて欲しかった」という声が多く聞かれました。事前の準備や宣伝が足りなかったことが今回の反省です。この素晴らしい活動が続き、多くの方にベトナムの文化と枯葉剤被害の実態が広まっていくことを心より願います。

(南魚沼公演実行委員会)



コンサートの合間に枯葉剤被害パネル展に見入る入場者の皆様 (南魚沼)

東京公演

西東京市、東久留米市の後援も

「ベトナム アンサンブル チャリティーコンサート 2019 東京公演」は、10月23日(水)西東京市・保谷こもれびホールを会場に、ベトナム・ホーチミンから国立ボンセン劇場・歌舞団選抜グループの皆さんをお迎えし、またゲストに西東京市在住のギター奏者の橋本道範さんにもお越しいただき、盛大に開催されました。

ベトナム戦争での枯葉剤爆弾の被害者の皆さんを支援するため、今年で 24 年目となるこのコンサートの西東京市での開催は 2016 年に続いて 2 回目。今回は、非核平和都市宣言を行

っている西東京市、東久留米の後援を頂き、三多摩平和運動センター、自治労西東京市職労、西東京自治研究センター、西東京生活者ネットワーク等で実行委員会を結成し取り組みました。また、末松義規衆議院議員、石毛しげる都議等多くの議員のみなさまにもご協力頂きました。

実行委員会では、ベトナム戦争の終結から 44 年が経過した現在においても、当時使用された化学兵器の影響で、苦しんでいる方々がいらっしゃることを知り、その皆様のために何ができるのか、また、戦争、そして、平和について、会場の皆様と一緒に考えるきっかけとなるとともに、音楽を通じ日本とベトナムの文化交流が推進されるような取り組みにしたいと討議しました。

そのために、多くの市民に呼びかけるとともに、翌日は市内の保谷第二小学校で 6 年生の音楽の授業での友情公演を企画しました。

小学校での友情公演では、民族楽器に子どもたちが直接触れ、音を奏でる機会、日本の歌(ふるさと)と一緒に歌う等貴重な思い出に残る素晴らしい国際交流の機会になりました。

多くの子どもたちが、「今も枯れ葉剤によって苦しんでいる方がいることを知り、できることをしたい、募金等企画したい。」「ベトナムのことが好きになりました。また交流したい」と感想が出され感謝の手紙を送付しました。

日本とベトナムの友好関係がより一層深まった素晴らしい東京公演でした。関係者のみなさまに感謝申し上げます。

(東京公演実行委員会)



公演終了後、実行委員会の皆さんと

トピックス

・西東京市での保谷第二小学校での民族楽器紹介・演奏会で交流した小学生 84 人から「ボンセン歌舞団のみなさまへ」として手紙が届きました。

手紙には事前にベトナムのことを学習した模様が伺え、楽器のこと、戦争のことにも触れた内容が多くありました。



上：東松山市第一小学校で楽器体験の様

左：西東京保谷第二小学校の演奏会に参加した小学生からの手紙綴り

活動のたより

ハノイ大学短期研修

～日本ベトナムコラボレーションプログラム～
JVPF 福岡

JVPF 福岡は、ハノイ大学 CCJLC（日本語・日本文化コラボレーションセンター）との共催で 2015 年からハノイ大学短期研修を実施してきました。研修先のハノイ大学は 1959 年ハノイ外国語大学からスタートしたベトナムでも有名な国立大学の 1 つです。研修名は「日本ベトナムコラボレーションプログラム」と言い、日本の大学生にベトナムを理解してもらい日越学生交流をより促進していくことを目的としています。



研修期間は 12 日間でハノイ大学の学生寮に宿泊し研修生活を送ります。

研修プログラムは、午前中の 1 限目は、ベトナム語の学習、2 限目は、ベトナムの歴史、文化、経済、暮らし、日越関係などについて学習をします。ベトナム語学習は、ベトナム学部の教授が簡単な英語を交え授業を行い、ベトナムの歴史、文化、経済等の学習は日本語学部の教授が授業を行います。午後からは、ハノイ大学日本語学部のボランティア学生とともに博物館、遺跡、観光地等を訪れ、午前中の授業を復習し体験するという内容です。また、休日には世界遺産であるハロン湾やチャンアン遺跡を観光し、ベトナムの自然を満喫します。

研修の最終日は、発表会となり、研修期間を通して自分が学んだことをプロジェクターなどを使い、ハノイ大学の教授や学生の前で発表し、修了証書を受け取ります。発表会ではベトナムの「食文化」「宗教」「観光」「経済」等、個々人が興味・関心を持ったテーマで発表が行われます。

参加学生の感想では、「ベトナムという国、人の見方が変わった」「ハノイ大学に友達ができよかった」「最初は不安だったが、行ってみると物価は安いし、人も優しく、生活しやすい」「このような研修を実施してくれたハノイ大学の先生や学生に感謝します」等高い評価をいただいています。

グローバル化の反動として保護主義的、民族主義的な考えが国内外問わず広がる中、ベトナムという国、文化、言語、暮らしを理解し、尊重し、友達を輪を広げる、このような異文化交流・異文化体験を目的にした研修も日本の学生にとって必要な研修ではないかと思っています。

クアンナム省「仁愛の家」寄贈で 250 万円

～枯葉剤被害者支援「仁愛の家」は 40 軒へ～
JVPF さいたま連絡会 平松伴子

2019 年も 8 月 4 日から 9 日迄、ベトナム・クアンナム省のダイオキシン被害者の「仁愛の家」建設支援に行ってきました。

昨年の「ベトナムレポート」に支援金振込用紙を入れさせて頂いた結果、全国の皆様が支援金を振り込んで下さったり、川越の方は直接、私の家に届けて下さいました。その金額は、ナント、250 万円にもなったのです。

皆様に心から御礼を申し上げたいと思います。

8 月 5 日、クアンナム省友好協会連合事務所を訪問し、シン副会長・ハイ事務局長・友好連合職員・新聞記者とお会いして、日本全国の皆様から寄せられた「仁愛の家」建設支援金「250 万円」をお渡しすることが出来ました。

その時、友好連合のシン副会長から次のようなお礼の言葉とベトナム政府の方針を伺いました。録音してきましたので、そのままお知らせしたいと思います。



二百五十万円受領の証明書

【友好連合会シン副会長のことば】

——クアンナム省友好協会連合において頂き、ありがとうございます。ダイオキシン被害者を代表して御礼申し上げます。

皆さんの支援で造られる「仁愛の家」のプロジェクトは、ベトナム政府と人民委員会が高く評価しています。そして、このプロジェクトのやり方をベトナム各地で勉強しています。このプロジェクトは大成功ですから、ベトナム政府だけでなく、多くの組織も高く評価して、全国の下部組織に紹介しています。

皆さんの支援金は日本政府や行政のお金ではありませんから、ベトナム各地方の組織も一緒になって参加することができるのです。

皆さんから頂く金額は建設費の半額ですが、それに加えて各地の組織がこのプロジェクトに協力してくれるようになりました。各組織が少しずつ資金協力して、1 軒の「仁愛の家」を完成するのです。

今年は、日本の皆さんの支援金の御蔭で 40 軒目の「仁愛の家」が建設出来ますから、その情報が各地に広がり、みんなで活動の意味を勉強して、更に協力するようになりました。また、会社や民間企業も協力するようになりました。村の青年同盟や女性同盟も自主的に協力するようになりました。

グエン・ティ・ビン女史は私たちのことを「コ・ヴィー」(同志)と呼び、ダイオキシン被害者のために努力しています。国民はよく知っていますー

こんな嬉しい報告をされて、私たちも喜びました。もし、可能ならば、2020年には50軒目の「仁愛の家」が建設できるように、私たちも頑張りたいと思います。

JVPF の先輩のみなさんのご指導とご協力をお願い申し上げます。(記:2019年12月)

岩手・JVPF 結成

～ハザン省の少数民族学生奨学金支援に参加～

岩手ベトナム平和友好連絡会議



10月21日、盛岡市で「岩手ベトナム平和友好連絡会議」結成会議が開催されました。

結成会議には、呼びかけ人やこれまでチャリティーコンサートを支援してきた自治労をはじめ関係労働組合などから十人が出席しました。

会議の冒頭、呼びかけ人を代表して、竹花せい子盛岡市議(元JVPF理事長 故竹花恭二氏の妻)が、「岩手でもベトナムとの相互理解を深め、芸術、文化、スポーツ、経済などの幅広い分野での交流を推進していこう。」と挨拶しました。

続いて、来賓としてJVPF本部 鎌田副理事長が挨拶した後、呼びかけ人の野中靖志盛岡市議から、組織の会則(案)と役員体制(案)が提案され、満場一致で承認されました。

今後、岩手においても、JVPFが主宰するチャリティーコンサートの開催や少数民族出身学生奨学金支援活動のサポーターの募集、などの活動を推進していくことを確認しました。

結成会議の終了後、引き続き、チャリティーコンサート盛岡公演が開催され、百人の聴衆がベトナム民族音楽の調べを堪能しました。

役員体制は次の通り。

会長／竹花せい子(盛岡市議)、副会長／伊藤裕一(自治労岩手県本部委員長)、野中靖志(盛岡市議)、事務局長／金澤康(こくみん共済自治労共済県支部)

HVPF設立10年、一般社団法人に移行

～クアンチ省と10年にわたる交流～

HVPF 専務理事 赤木 達男

広島ベトナム平和友好協会(HVPF)は、2009年6月21日に設立し、昨年丸10年を迎えました。個人会員32名、法人会員3者でスタートし、個人会員58名、法人会員19者へと倍加しました。設立前の8年を含め18年余り、協会設立の機運づくり(準備期)から設立後5年間の基盤づくり(草創期)、「草創期の組織基盤の強化を図りつつ次なる飛躍に向かって歩む」(発展期)の5年を経て丸10年が経ちました。向こう5年間を「運動と組織を継承し、次なる飛躍期」と位置づけ、2018年度に「HVPF設立10周年記念運動」とともに一般社団法人化の準備を進め、2019年5月21日に一般社団法人に移行しました。

第15次ベトナム平和友好訪問団は3つの特徴がありました。その第一は、クアンチ省少数民族寄宿高等学校への奨学金支援活動です。この間、第1期から第11期奨学生まで220名の子どもたちを支援してきましたが、ここ数年、サポーター登録が定数を割る状況が続いていました。2017年に「古本募金」を始めるとともにサポーターへの情報提供などホロー体制を強化しつつ、メディアの協力を得ながらサポーター登録を進めた結果、島根県や長野県など初めて県外からも寄せられ過去最高の38名に達しました。初めて現地での奨学金授与式に出席した訪問団員は、目を輝かせ熱狂的に歓迎してくれた子どもたちに感動し、帰国後「6枚のサポーター申込用紙を送って」と、早速、第12期サポーター募集を始めてくれています。

第二は、クアンチ省との10年にわたる交流をさらに深め前進させようと、クアンチ省友好委員会連合(トラン・カン・フォイ会長、クアンチ省外務委員長)との間で、「両当事者は、両地域の社会経済発展のために、民間外交のフレームの中で、双方のそれぞれの潜在的もしくは地域的な強みを紹介し、ともに発展する活動を実施する」という「友好協力関係を促進する覚書」に調印したことです。

第三は、4度目となるフエ医科薬科大学を訪れ、2年前に続き医療・介護・福祉人材育成に関する連携について意見交換



をしたことです。今回は東広島市議会「アジア視察団」と共に、東広島市が進めている外国人介護人材育成に関する検討にタイアップし、グエン・コン・フン副学長、ホア・ドウ・ピ

ン看護部長などと会談しました。指数の都合で内容は割愛しますが、介護人材を海外に求める日本の姿勢が問われる学び多き訪問でした。

HVPF 設立 12 年目、めざす「飛躍期」に入って 2 年目の今年は、「被爆 75 周年」、「ベトナム南部解放 45 周年」という節目の年に当たります。9 月にはグエン・ドクさんを招き一週間の「パネル展」と「ヒロシマとベトナム～語り継ぐ平和の集い～」の「ピースアクション '2020' in 東広島」、10 月には福山市、広島市、東広島の 3 都市で枯葉剤被害児救援のチャリティー・コンサートを予定しています。

ホーチミン音楽院マスタークラスを終えて

～次回の角田和弘声楽マスタークラスを展望～

藤原歌劇団・テノール 角田和弘

ホーチミン音楽院にて 2 回目のマスタークラスを開催した。前回は 2 年前で、アンサンブルをやったことがないという学生たちの意見を聞いて、二重唱、三重唱の課題を出して、それに取り組んでもらったが、個々のレベルの低さに愕然となったことを今でも覚えている。そんなこともあり、今回は個人レッスンに切り替え、一人一人のレベルアップを目標に取り組んだ。約 60 名の学生が受講し、最初はブレスの使い方、ベルカントの発声法、音楽の作り方など、色々な方向から彼らの意識を高めた。また、その中には 9 月に日本に招聘したソプラノのファム・カン・ゴックさんも学生たちと一緒にあって、聴講してくれたことは交流という点で大きな発展があったと理解している。



レッスン模様

2 日間のレッスンでは、約 20 名ほどしかレッスンすることができなかったが、レッスンを受けた学生たちはそれぞれ次につながる何かを取得してくれたものと思っている。

最終日には、レッスンを受けた 20 名の学生の中から半分の 10 名にコンサートに出演してもらい実施したが、会場には学長を含め、学生、父兄などで超満員となり、立ち見が出るほどにぎわった。勉強することと発表することは全く違い、コンサートに出演した学生たちは、人前で表現することの難しさを知ったと思う。それでもみんな良く頑張った。

助手として同行してもらったソプラノの三輪英(みわはな)さんにもコンサートで歌ってもらったり、私も歌った。私の歌った「トゥーランドット」の「誰も寝てはならぬ」では途中の合唱部分を誰からともなく会場全体が大合唱してくれ、その感動は涙をこらえるので必死であった。会場は一気に盛り上がり、次へのステップになったように思う。

学長をはじめ、多くの先生方、学生たちから「第 3 回角田

和弘声楽マスタークラス」開催の依頼を受けたことは嬉しいことである。

「日越交流セミナー in かがわ」を開催

～駐日ベトナム大使館ラム・タイン・フォン公使らをゲストに迎え～

香川 KVPF



12 月 4 日(水)、香川ベトナム平和友好連絡会議(KVPF)の主催で「日越交流セミナー IN かがわ」を、JR ホテルクレメント高松にて約 30 社の県内企業トップの参加を得て開催した。

冒頭、KVPF 金光会長から、日本とベトナムとの交流等については、経済分野だけでなく人的投資・交流を含む新たなコミュニティの創設なども視野に入れて、香川から新たな発信をしていく覚悟であるとの力強い挨拶があり、来賓として参加した香川県浜田恵造知事、香川県議会日越議員連盟副会長三野康祐県議、JETORO 香川岡田晴彦所長からそれぞれの立場での挨拶も受けた。

続いて、メインゲストである駐日ベトナム大使館ラム・タイン・フォン公使参事官及びグエン・スアン・ディエン投資参事官より、ベトナムと日本・香川県の友好関係に向けた今後の課題及び経済・観光・労働の投資部門に係る現状と課題についての記念公演があり、合わせて、企業を代表して(学法) 穴吹学園池下国際部次長からベトナム人留学生の県内企業の就職等の課題についての基調報告を実施した。

セミナー終了後には、歓迎レセプションを開催した。来賓として香川県浜田恵造知事はセミナーから引き続いて参加、新たに高松市田村真一副市長、丸亀市梶正治市長、さぬき市大山茂樹市長も参加され、駐日ベトナム大使館公使参事官、投資参事官両名を中心に、各企業トップとの活発な意見交換を実施した。

セミナーの前段には、すでにベトナム人労働者を正規雇用している(株)マキタの企業訪問も実施し、駐日ベトナム大使館公使参事官、投資参事官両名にはハードなスケジュールではあったが、今後のベトナムと日本、特に香川県との連携を深めるうえで有意義な 1 日となった。

ラムドン省で 7 期目の少数民族学生奨学金実施

ラムドン省少数民族寄宿高校には 18 の少数民族出身学生が学んでいる

JVPF 鹿児島支部 川路 孝



2019年12月25日、JVPF鹿児島支部が就学支援を行っているラムドン省ダラットにあるラムドン省少数民族高校で、7回目となる奨学金授与式を行いました。

今年は、私たちの日程の都合上、クリスマスの日や学校内の試験日程と重なってしまい、学校や生徒さんにご迷惑をかけてしまいましたが、無事執り行う事が出来ました。



授与式では、全校生徒約450人全員の参加は無理となりましたが、奨学金を受ける30人全員と先生方も10数人参加して頂きました。

今回も熱烈な歓迎セレモニーで始まりました。舞台正面の「ホーチミン氏の胸像」や「JVPFから奨学金を頂いている」との大きな看板の前で、生徒さんによる民族衣装を着ての歓迎の踊りや歌がありましたので、鹿児島の参加者からも「踊りと歌」で応えるなど大「文化交流」で始まりました。

奨学金授与は、第5期生から第7期生の30人でした。JVPF鹿児島支部からは川路孝と道免芳隆・前田秀一・米永あつ子の4人と、JVPF本部から鎌田さん2人、ベトナムのJVPFからルオンさん他1人の8人が参加しました。

奨学金は30人の生徒さん一人ひとりに手渡ししましたが、その際ほぼ全員から「ありがとうございます」と日本語で応えて頂きました。

少数民族の子供さんですから、まず「ベトナム語」をしつかりと学ぶことが一番の課題と思いますが、日本語で返して

くれましたし、30人全員から「お礼」の手紙も頂いています。昨年から全員が英語で書いてくれています。その意欲やまじめさ、努力には感銘しました。また、校長先生のあいさつでも「JVPFの活動を受け止めてしっかりと勉強しよう」というお話や、奨学金を受けている生徒代表も「奨学金頂いて感謝しているだけでなくJVPFの皆さんの心を受け止めて頑張ります」との挨拶もあり、私たちの思いも受け止めて頂いている事を感じました。あわせて、最近では年に1回ですが、会うたびに親しみを感じるようになっていきますし、就学支援活動をやっているよかったですということ

改めて感じています。

さらに、生徒さんも「目が輝いている」し、笑顔いっぱい歓迎してもらっているし、本当に意義ある友好・連帯の活動だと感じています。

また、学校内のビニールハウスも見せていただきましたが、多くの野菜が作られていました。全寮制ですから財政面からの運営も大変と思いましたが、学校の努力も大変なものがあることも感じています。また、奨学金受領者の名簿に54民族以外の民族の子供さんもいましたし、昨年は、学校内に18の少数民族の子供さんが学んでいるという事でしたので、先生方の苦勞も多いことだと感じました。

私たちの活動も、まだまだ微々たる内容ですが、引き続きで支援を続けていきたいと思えます。

鹿児島 JVPF の少数民族奨学金授与訪問団はベトナム滞在中、「トラの檻」と言われる監獄の島コンソン島・コンダオ監獄を見学しました。

ベトナム・コンソン島を訪問して

JVPF 鹿児島支部 前田 秀一



2019年12月23日、ベトナム滞在2日目、「世界で最も神秘的な島ベスト9」に選ばれているベトナムのバリア=ブントウ省のコンソン島を訪問しました。

コンソン島はベトナム南部メコンデルタの沖合にあり、大小16の島々の中で唯一の有人島です。ホーチミン市から南へ約230 km、ベトナム国内線飛行機で約45分かかりました。

コンソン島は、現在は有数の観光地となっています（ブラ



ッドビットとアンジェリーナジョエリ家族が過ごしたホテルも有名な避寒地となっていますが、その歴史は悲惨な監獄を持つ島であると言っても過言ではありません。

1702 年にイギリス東インド会社がこの地を支配下に置き、続いて 1787 年にフランスの支配下に置かれました。フランスが、ベトナム

多くの解放戦士が囚われた拷問部屋「トラの檻」は高鐵の足枷に加え上から監視され石灰を浴びせかけるなどされた跡だ(2019/12/23)



で独立運動を進めた政治犯の流刑地としてコンダオ刑務所を開設したのが始まりだと言われています。

1954 年に同刑務所はベトナム共和国の管轄下となり、ベト

ナム戦争中はベトナム民主共和国（北ベトナム）側の捕虜や協力者が多数（最大 2 万人）収監されていたと言われていま

す。現在もコンダオ刑務所跡地は、ベトナム解放戦争の歴史を残すものとしてそのまま残されていました。狭い牢獄に身動き取れないほどの政治犯を押し込め、鉄の鎖で自由を奪い、また屋根のない青天井のままの牢獄やベトナム共産党の政治犯は窓のない真っ暗な独房に押し込められていたとのことでした。この牢獄は「虎の檻」と称され、戦争の非人道性の象徴的歴史的建造物として公開されているとのことでした。

今回のコンソン島、中でも特にコンダオ刑務所訪問は、抑圧と隷属から独立と解放を勝ち取ったベトナム人民の歴史に学ぶ感動の機会を得ることが出来た訪問となりました。

人口約 8 千人の島は、農地は殆ど無く、主な産業は漁業であり、海岸には日本にもある「たらい舟」を少し大きくしたような船を、現地の漁師が櫓を上手に操って漕いでいる姿にも驚かされました。

島に唯一ある市場も見学しました。魚や肉、野菜が無造作に台上に置かれていましたが、野菜の種類の高さには驚かされました。食事には「文化」の違いを感じるところが多少ありましたが、雑穀米を食べてきた幼少期を思えば馴染めない味では無いと思いました。

今回の訪問では、オートバイクとクラクションの喧騒に初めは驚かされました。滞在 3 日では横断歩道も関係なく、自家用車とオートバイクの走る路上を縫うように歩くことも怖さを感じることなく出来るようになりました。

今回のベトナム訪問では、この国は近い将来でも、物凄く発展するであろうことを強く感じました。地下鉄や列車などのインフラ整備と若者の教育の今後が楽しみだと思える旅でした。

掲示板

- 2019 アンサンブルコンサートの歌舞団たちは今回も宮古市の東日本大震災被災地復刻記念植樹跡（ねむの木）を訪問



しました。これは 2011 年に訪日していた歌舞団とグエン・フー・ビン駐日ベトナム大使（当時）らが復興祈念植樹したもの。今回も竹花邦彦・宮古市議に受け入れていただきました。

- 2019 コンサート基金で 2020 年 1 月 12 日ハザン省の枯葉剤被害者貧困糧家庭に「仁愛の家」建築のため 75 万円を寄贈。

詳細は会報「ホアビン」次号で報告。

- JVPP20 周年記念／ベトナム南部解放・統一 45 周年訪問団を 4 月 26 日～5 月 1 日計画
概報では訪問先をハノイ・フエ・ホーチミンとしていましたが、ハノイ・ダナン・ホーチミン訪問へ変更。



ハザン・貧困家庭の家屋原状

4 月 30 日のベトナム南部解放・統一式典参加予定。

ご希望の方には別途詳細資料をご案内します。

- JVPP20 周年記念祝賀会を第 13 回総会を兼ねて 5 月 30 日、31 日で予定。会場は大分市内。
- JVPP20 周年記念事業で、記念資料「日本の労働者とベトナム戦争」作成も計画中。
- 2020 秋／枯葉剤被害者支援・ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート 10 月中旬から計画

《おことわり》本号送付に当たっては旅行社アイエフシーの便宜供与を受けているため、アイエフシー依頼のツアーチラシを同封しております。